

# 令和7年度 学校評価シート（最終報告）

●7月：第1回児童アンケートと教職員アンケート実施 ●1月：第2回児童アンケートと教職員アンケート実施予定。保護者アンケート実施

\*評価:A:「十分に達成された」、B:「おおむね達成された」、C:「やや達成されなかった」、D:「達成されなかった」で評価

上田市立西小学校

学校教育目標・めざす児童の姿	今年度の重点目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
<学校教育目標> かしこく やさしく たくましく <めざす児童の姿> 進んで学ぶ子 豊かな心をもつ子 たくましく生きる子	○授業づくり 45分間 心と体をフル回転して取り組む授業 子どもの意識に沿った探究的な学びの充実	B	・村瀬先生を講師としてお招きし、11月に今年度2回目の研究授業を2年生で行った。子どもたちの学びの姿から、共感することの大切さと、言語化についての学びを得た。また「できる」から「できない」への挑戦であるからこそ、個別にできないときに友だちと協働をするということを学んだ。	引き続き個別と協働について職員で学んでいく。実践とともに見合う場数が少ないことが課題ではあるが、そういった機会がなくても自分から空き時間に授業を参観する職員もいた。研究主任を中心に、日々の研究の在り方について考えていきたい。
	○集団づくり あいさつを通して安心して生活できる笑顔あふれる学校	A	・児童会の当番活動に位置付けたり、校長先生が教室をまわってくださったりしたことで、朝の挨拶が習慣化できた子どもたちも多かった。	職員アンケートでは、前期に比べ後期は職員があいさつを意識している結果が出た。今年度から大切にしているので、来年度も引き続き取り組むとともに、学級だけでなく全校や学年で振り返りをする場面を設け、さらに意識を高めたい。
	○健康な心と体づくり 活発な外遊び	A	外遊びについては、季節によって差があるが、子どもたちは休み時間の運動を楽しんでいる様子がある。寒い時期でも、サンシャイン広場では、異学年で縄跳びを楽しんでいる様子があった。	児童アンケートでは、90%の児童が、体育の授業で体を動かすことが楽しいと答えた。授業だけでなく、自分から体を動かすことを楽しめるよう、働きかけをしていきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策・向上策
教育活動	教育課程	◇学校行事の充実	子どもたちを主役とし、満足感・達成感が残る行事を実施することができたか	A	職員アンケートでは、前期と後期で差がなく、高い評価をつけている。児童アンケートでも、およそ99%の児童が肯定的な評価をしていた。	コロナ禍に行事の考え方を「授業の延長としての行事」とし、各行事の練習から本番までを1つの学びとして捉え、今年度も取り組んできた。児童の学びの姿を振り返りながら、よりよくなるように改善していきたい。
		◇どの子どもも安心して学べる教室環境づくり	掲示、発問、環境の工夫、個別の指導計画の活用、学校内外の連携により個に応じた指導が行えたか	A	職員アンケートの結果では、前期と比べ後期は積極的に取り組んでいることが分かる。	児童アンケート項目の、「クラスへの安心感」「先生が話を聞いてくれる」の評価は、共に90%以上が肯定的な評価であった。教師と児童との関わり、児童同士の関わりがよりよくなるように今後も努めていく。
	学習指導	◇ <u>聴き合う</u> ／ <u>学び合う</u> ことを通じた協働的な学びの充実（授業づくり）	授業で、心と体をフル回転して取り組む課題設定（ジャンプの課題）ができたか	B	職員の評価を見ると、取り組みに個人差がある。課題設定について共通理解が必要である。	課題設定が児童にとってどうだったのかは、児童の姿から評価するものである。職員は、児童の学びの姿から自己を振り返ることができるよう、今年度2学期より取り組んだ、職員の自己課題を元にした研究を今後どのように進めていくか等、研究主任を中心に考えていく。
			教師は子どもの声に耳を傾けることができたか	A	児童アンケート「先生が話を聞いてくれる」の質問に、90%以上が肯定的な評価をした。	児童が安心して教師に話せる環境づくりを今後も進めていくとともに、なかなか声に出せない児童にも目を向けられるよう、学級だけでなく学年全体で児童を見ていく。
			友と関わり合いながらペアやグループで学びを深めることができたか	B	職員アンケートの結果では、80%の職員が友との関わりを意識して授業をしている結果だった。児童アンケートでも、友と一緒に考えたり話し合ったりすることに、90%の児童が肯定的な回答だった。	友との関りをさらに意識して取り組むとともに、学びを深めるという点についても考えていきたい。
	◇体育学習の充実（健康な心と体づくり）	運動固有の楽しさ（特性）に触れながら夢中になって体を動かす授業ができたか	B	年間を通して8割～9割の児童が、体育の授業で体を動かすことが楽しいと感じている。	外遊びをする児童としない児童とがいるが、冬場に縄跳びをする児童が増えてきた。クラスによる大縄跳びの取り組みなど、目標をもって取り組む活動ができたので、今後も目標をもって取り組む運動を促したい。	
	生活指導	◇あいさつの充実（集団づくり）	あいさつを充実するためのはたらきかけができたか	B	職員アンケートでは、前期後期ともに66%以上の職員があいさつを意識していた結果であった。後期には、前期に評価がつかなかった「十分達成された」の評価が10.5%となり、意識が高まっている。	職員の意識が高くなってきたが、学校全体で高めていけるよう、具体的な目標を共有することや全体での振り返りを行い意識付けをするなど、よりよくなるための具体案を考えていく。

		◇人権教育の充実	人権教育の授業改善を進め、いじめや差別のない学級とすることができたか	A	児童アンケートでは、前期と比べ後期は肯定的な評価が9%高くなり、76.8%の児童が学級に安心感をもっている結果となった。	職員アンケートではおよそ93%の職員が人権教育を意識して取り組んでいた結果となった。保護者アンケート「いじめや差別がなく安心して生活できる」という質問への評価は、昨年度と比べると高くなった。人権月間の11月だけではなく、日頃から人権意識を高めていきたい。
		◇つながりを深める交流活動	ペア学級など異年齢との交流を通して、周りの人のことを考えようとする気持ちを育てることができたか	A	1年間を通して、ペア学級の交流を多く行うことができた。また各学年では、保育園との交流や介護施設との交流などにも積極的に取り組むことができた。昨年度から保育園との交流をしてきた6年生は、1年生と自然な関わりができた。	各学年で積極的に異年齢交流に取り組んでいる。継続して交流をしていくことで、より深い交流活動を目指し、相手意識をもつことにつなげていきたい。
学校運営	地域との連携	◇ふるさと学習の充実	生活科や総合的な学習の時間にふるさとで学びを深めることができたか	A	各学年で、学校外に出て学ぶ機会をもつことができた。今年度は、そのつながりを記録して残していこうと取り組んでいる。	外部講師をはじめ、今年度関わった方や施設などの名前や連絡先などを記録して積み重ねていきたい。
		◇地域ボランティアの支援	ボランティア活動を積極的に進めることができたか	B	「ぶんぶんぶん」による読み聞かせ、クラブ活動、放課後学習など、今年度も継続して進めることができた。	地域ボランティアの方々に協力していただけるのが当たり前ではなく、1回1回の機会を大切にし、感謝の気持ちをもって取り組めるよう、引き続き児童に働きかけていきたい。
	研修	◇教職員の指導力向上	互いの授業を気軽に見合い、日常の授業を改善することができたか	B	授業を見合う場面が多くはないが、個々に他学年の授業を参観したり自分の実践を職員チャットで発信したりする教師がいた。自ら率先して学ぶ姿勢を大切にしていきたい。	学び合う意欲が職員の中にあるので、来年度はその意欲を生かせるような場を多くもち、教師の指導力の向上に努めていきたい。